

□議員名：河野朋子

1 図書館について

論点	本市の図書館は新しい発想での運営がされ、注目されている。今回館長の公募に際しては、どのような観点で選考するのか。
回答	本市の図書館は、従来の貸し出し業務にこだわらず、知の拠点、情報発信の拠点として、市民のあらゆる課題解決を支援する新たな図書館像をビジョンとして持っている。この考え方のもと、専門性の高い館長を選考したい。

論点	平成18年に第1次子ども読書活動推進計画が策定され、その期間は3年であった。第2次計画の策定が待たれるが、進捗状況は。
回答	平成21年度に検討プロジェクトチームを、さらに市民も交えた検討委員会を設置した。そこで、第1次計画を見直し、第2次計画の原案を策定し、このたび図書館協議会でも承認された。今後パブリックコメントを経て、平成25年度中に実施したい。

論点	24年度より市内全校に学校司書を配置されたが、学校図書館はどのように変わったのか。
回答	学校図書館の整備が進み、廊下や各教室でも効果的な図書の展示がされ、来館者数や貸出冊数、図書室を利用した授業が増加するなど、着実に成果が上がっている。また、図書支援員との会話や触れ合いなど、図書室を舞台にした児童生徒への支援も行われている。

2 市民病院について

論点	新病院建設に向けての収支計画において、23年度、24年度の達成状況はどうか。
回答	23年度は入院患者数が目標を大幅に下回っているが、他の項目はほぼ達成できた。24年度見込みについては入院、外来とも患者が激減して、収益も大きく落ち込んでいて、主要な目標数値の達成は難しい状況である。

論点	収益が当初予算に比べて3億円以上落ち込んでいる。入院、外来患者が大幅に減った原因は何か。
回答	はっきりわからないが、建物の老朽化や狭隘化、駐車場も頻繁に変わるので安全性の面もある。また、認知症や感染症患者が、24年には重なってしまったことも原因かもしれない。

論点	医師は現在21名だが、開業時に30人という確約、何科の医師がいつごろ何名派遣など、具体的に決まっているのか。
回答	まだ、決まっているという段階ではない。非常勤の医師をうまく活用して、30名に向かっていく。

論点	病院経営については、経営形態を含めて早急に検討すべきと思うが、市長は現在の状況についてどう考えているのか。
回答	市民病院は採算を重視する病院と違い、その大半を市民の税金で賄っている。指摘された点についてはもっともで、病院局も謙虚に受け止め、私も新病院開業までさらに落ち込みがないように、しっかりその動向を見守っていきたい。